



不審なメールの対処方法

ある芸能人やそのマネージャーになりすまし、「聞いてもらいたい話があります」「連絡先を教えるなど」の多数のメールを送り、メールのやりとりを行ったサイトの使用料として100万円以上をだまし取った疑いで会社役員が逮捕されたという報道がありました。この会社は約37万人分の顧客名簿を持ち、芸能人やそのマネージャーをかたって「相談がある」などとメールで誘って有料サービスに誘導する手口を使い、2年間で116億円を売り上げたそうです。

知らない発信元から送信されてくるメール。今回は、不審なメールを未然に防ぐ方法や対処方法を紹介します。

1. メールアドレスをむやみに公開しない。



→Web上を自動的に巡回してデータを収集するプログラムでインターネット上に公開するメールアドレスを集めている業者があります。ブログやSNSサイトのプロフィール欄などにメールアドレスを公開してしまうと、ターゲットになる確率は高くなります。

2. 第三者が推測しやすいメールアドレスは避ける。



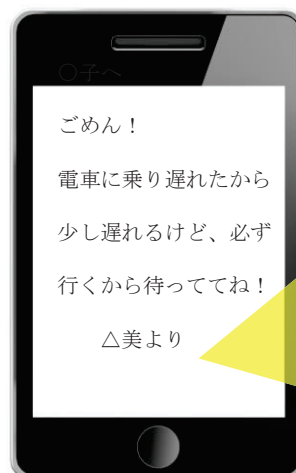
→メールアドレスはアルファベット・数字からなる単純な文字列です。このため、辞書に載っている単語や、名前・誕生日などを組み合わせたメールアドレスのリストを業者は作成しています。誰にも教えていないメールアドレスに不審なメールが届くのはこのためです。メールアドレスの設定は慎重に行うことが大切です。

3. 疑わしいメールに返信せず、削除する



→不審なメールを受け取ってしまったら、開封せずに削除することが大切です。興味本位でメールに返信してはいけません。また、メールに貼り付けられたURLのクリックも厳禁です。一度、不審なメールに返信したり、URLをクリックしてしまうと、メールアドレスが使われていると業者に知らせてしまうことになるのです。

また、なりすましメールの他に、送信先を間違っただけにして送り、返信の有無によってアドレスが使われているかどうか確認するといった手口もあります。どんなに対策を講じてもお子さんに不審なメールが届く可能性はありますので、メールが届いたとき必ず保護者に伝えるなど事前に約束を決めておき、冷静な対応をとるよう指導しておくことが大切です。



一見、送信先を間違えてしまったように見せかけ、相手の良心につけ込んで「送信先が間違っていますよ。」などと返信させる。このことによって使われているアドレスということが業者に知られてしまう。

情報モラルハンドブック を総合学習センターHP にアップしました！

情報モラルハンドブックは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を身につけることを目標に作られた冊子です。小・中学校に配布し、道徳の授業などで活用されています。

保護者の方にも見ていただき、お子さんの指導に役立ててほしいと考え、総合学習センターのHPにアップしました。まずは、ダウンロードしてみてください。お子さんへの指導のヒントが見つかるはずです。



今月のネットパトロール状況

学校裏サイト	問題のあるプロフィールサイト(プロフ)
(5/24現在：553サイト、前月比+2)	(5/24現在：769サイト、前月比+79)
<ul style="list-style-type: none"> ●パスワード・会員登録が必要 197件 ●個人情報の掲載 22件 ●誹謗中傷の書き込み 3件 ●不適切な内容の書き込み 28件 	<ul style="list-style-type: none"> ●パスワード・会員登録が必要 292件 ●個人情報の掲載 216件 ●誹謗中傷の書き込み 0件 ●不適切な内容の書き込み 54件

Twitter のアカウントが多数発見されました。修学旅行などの行事や試験勉強状況等などの日常生活の様子を Twitter に投稿（この行為を「つぶやく」と言います。）しています。投稿した「つぶやき」は電話で話したものと違って、文字や画像としてネット上に公開された形で残ります。

安易な投稿が社会を騒がせ、大きな問題へと広がってしまったニュースも取り沙汰されています。子どもの何気ない投稿がネット上で注目されたり、誹謗・中傷に受け取られたりすることも考えられます。安易な書き込みをしないよう、子どもに指導することが大切です。

- 保護者向けの研修会に講師として指導主事を派遣しています。
- 学校裏サイトに関する相談も随時受け付けています。

連絡先：相模原市立総合学習センター学習情報班 Tel 042-754-2577

